

予報期間 11月28日から12月4日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 30日は、高気圧が日本のはるか東へ移動し、低気圧がサハリン付近と日本海西部に進む。
- 12月1日は、低気圧が発達しながら日本海北部を通してサハリン付近へ進む。
- 2日は、低気圧がオホーツク海に留まり、日本海に気圧の谷が進む。大陸の高気圧が西日本付近に張り出す。
- 3日から4日にかけて、日本海で発生した低気圧がオホーツク海に進み、寒冷前線が日本付近を通過する。大陸の高気圧が日本付近に張り出して冬型の気圧配置となる。

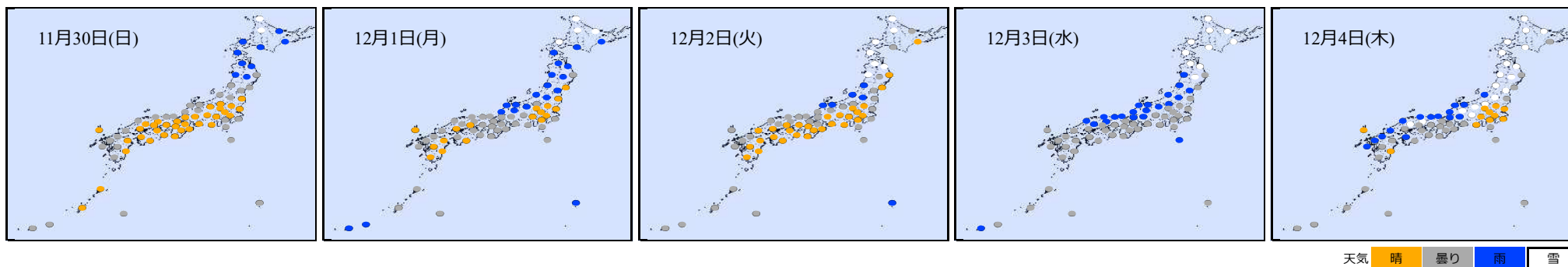
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 12月1日頃は、サハリン付近へ進む低気圧の影響で北日本では荒れた天気となり、低気圧の発達程度等によっては大荒れとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

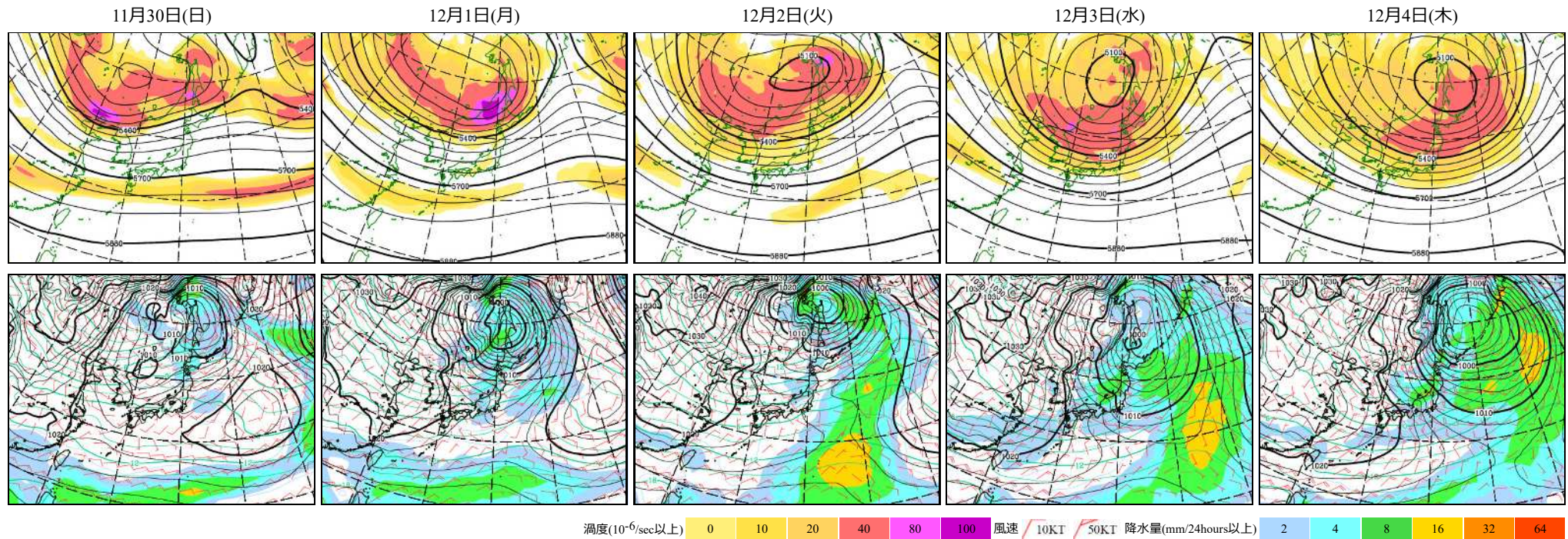
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

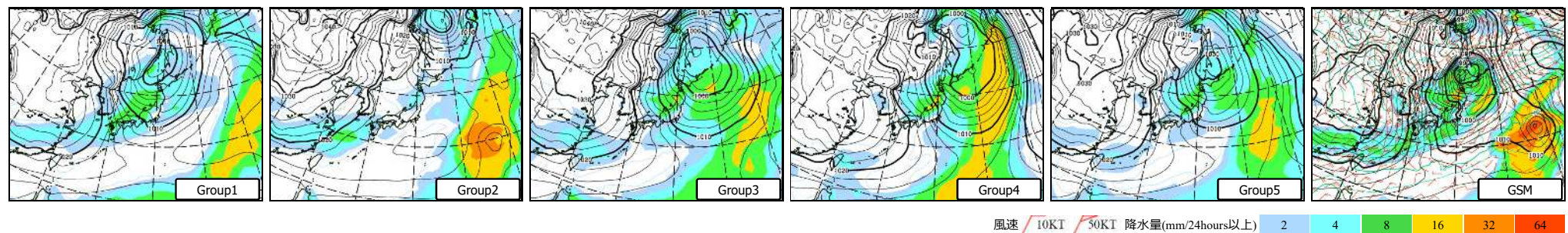


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、晴れる所もあるが曇りや雨または雪の降る所が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、12月1日と3日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月3日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、12月1日にサハリン付近に進む低気圧の勢力が強まった。3日にサハリン付近に進む低気圧の動きが遅くなり、4日にかけて日本付近の冬型の気圧配置が強まった。
- モデル間の差は、期間の初めと終わりは小さいが、期間の中頃は大きくなり、低気圧の位置や勢力にバラツキが見られる。
- スプレッドは期間の後半に大きく、特定高度線のバラつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。